

# 常磐海域におけるヒラメの食物利用の地理的差異

福島県水産試験場 相馬支場

## 1 部門名

水産業—資源管理—ヒラメ

## 2 担当者

富山 毅

## 3 要旨

仙台湾ではヒラメがイカナゴやカタクチイワシを主に摂食するが、常磐海域では富岡町以南でイカナゴがほとんど分布しないため、ヒラメの食物に地理的な変異がみられるかどうかを検討した。2001～2006年に、市場で購入あるいは調査船調査で採集した全長20cm以上のヒラメの胃内容を調査した。

- (1) 富岡町以北(以下、北部)ではカタクチイワシとイカナゴがヒラメの胃内から多く出現したが、富岡町以南(以下、南部)ではイカナゴはほとんど出現せず、主な内容物はカタクチイワシであった(図1)。
- (2) どちらの海域でも、カタクチイワシは5月～2月に摂食されており、3～4月ではカタクチイワシは胃内から出現することがほとんどなかった。これはカタクチイワシが移動により常磐海域から消失することを反映していると考えられた。
- (3) 3～4月の期間、北部ではイカナゴを主に摂食していたが、南部ではほとんど食物を摂食していなかった。この時期におけるヒラメの肥満度は北部で南部よりも高かった(図2)。
- (4) 以上から、時期によってはヒラメの栄養状態に地理的な差異がみられ、これは食物環境の差異を反映していると考えられた。

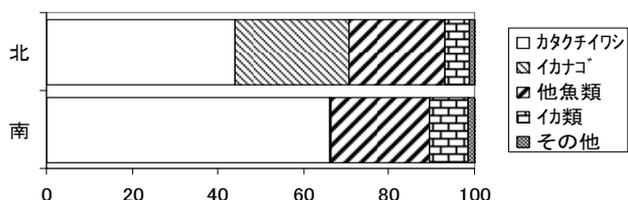


図1 ヒラメ成魚の胃内容物組成(重量%)

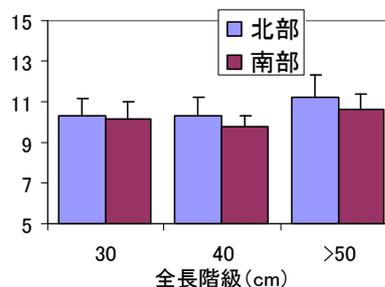


図2 ヒラメの肥満度(平均と標準偏差)

## 4 主な参考文献・資料

- (1) 富山毅・栗田豊(2010)常磐海域におけるヒラメの食物利用の季節・場所間変異. 2010年度水産海洋学会研究発表大会講演要旨集 p63.
- (2) Tomiyama T, Kurita Y(2011) Seasonal and spatial variations in prey utilization and condition of a piscivorous flatfish *Paralichthys olivaceus*. Aquatic Biology 印刷中